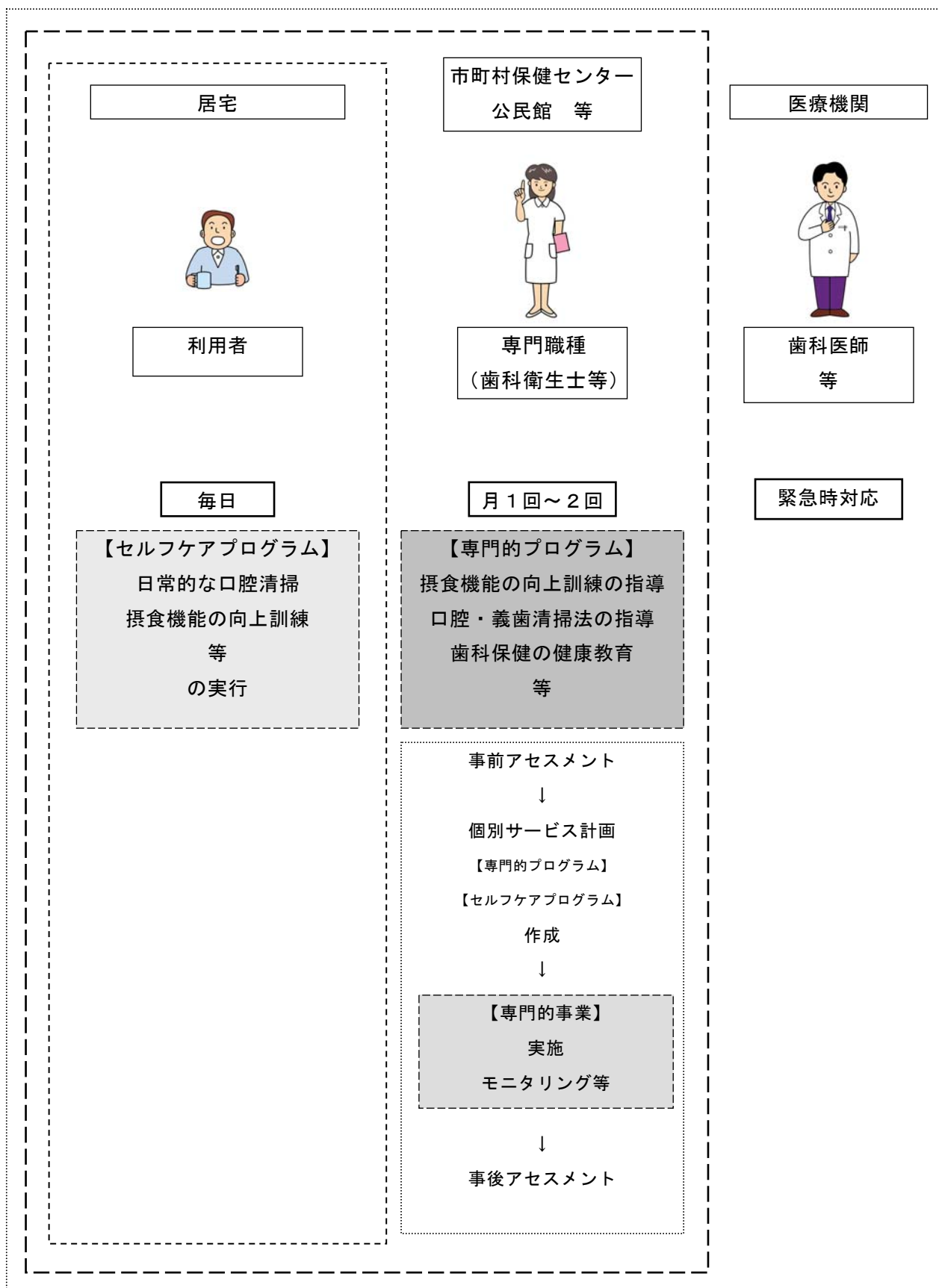


図3 特定高齢者に対する口腔機能向上事業の流れ



3.3. 予防給付

3.3.1. 目的

予防給付における口腔機能向上サービスは、要支援1及び要支援2の者で口腔機能の低下している者又はそのおそれのある者を対象に要介護状態への重度化防止や要支援状態からの改善を目指して実施する。

要支援者の口腔の機能が低下している状態を幅広くかつ早期段階で発見して、多くの利用者が口腔機能向上や改善に資するサービスを通じて、介護予防並びに自分らしい生活の確立と自己実現を支援するものである。

3.3.2. 予防給付における口腔機能向上サービスの内容

口腔機能向上サービスは、必要性の教育、口腔清掃の自立支援、摂食・嚥下機能等の向上支援のプログラムからなり、いずれかを実施する。

1) 口腔機能向上の必要性についての教育

当該サービスへの積極的な参加を図るためには、一生おいしく食べて、楽しく話し、よく笑うなどの基になる口腔機能を維持・向上させる必要があることを説明し、十分な理解を得る必要がある。それには、高齢障害者等にも理解しやすいように、分かりやすい図表やビデオ(DVD)、実際の体験者の事例なども交えて、以下の4点から繰り返し教育し、口腔機能向上プログラム参加への理解を深める。

- ① 口腔機能とは、口の中がうるおい、食べ物を味わい、安全に飲み込み、楽しく談話するなどの口の機能（ちから）であり、これらの機能が加齢と共に徐々に低下しがちであること。
- ② この機能の低下を予防する口腔機能向上プログラムは、比較的簡単で、いつでも・どこでも・誰にでも・短時間ででき、生活の刺激、脳への刺激などともなりえること。
- ③ 口腔機能向上プログラムの日々の積み重ねが、その口腔の機能の維持・向上に一定の効果を果たし、それが生活の質（QOL）や日常生活行為（ADL）の向上、ひいては介護の予防や個々人が目指すよりよい生活の実現につながること。
- ④ 実施する口腔機能向上サービスは、必要に応じて医療や歯科医療の専門職も関与して、口腔機能に関連する相談指導にも乗りながら、安全に実施できること。

2) 口腔清掃の自立支援（摂食・嚥下機能を支えるための口腔清掃）

口腔を清潔に保つことは口の中の細菌叢を改善し口腔疾患を予防するのみならず、高齢者にとっては日々の生活の刺激となり、インフルエンザ等の気道からの感染を防ぐ効果も大きい⁸⁾。また、口腔清掃は咳や嚥下の反射機能などの面からも口腔機能向上に有効であることが示されている。これらを根拠として、日常的な口腔清掃の意義と必要性についても分かりやすく説明し、集団での動議づけや習慣づけを交えながら、個々のアセスメント結果から判断された口腔清掃習慣の自立度と実効度に応じて介助や支援を実施する。また、口腔を清潔に保つ自立支援は、次項の摂食・嚥下機能等の向上訓練を安全に実施する上でも必要になる。

3) 摂食・嚥下機能等の向上支援

（咀嚼機能、嚥下機能、構音・発声機能、呼吸機能、表出機能等）

咀嚼・嚥下機能等の向上支援とは、一つには高齢者自らが主体的に口唇や頬、舌、のどや歯などの咀嚼や嚥下の器官の動きを維持し高めていくための直接的な向上訓練である。この訓練は、咀嚼や嚥下のみならず、呼吸や発声や顔の表情などの向上訓練でもある。

もう一つは、個々の利用者の摂食・嚥下等の低下の現状をふまえ、利用者が口腔機能を十分発揮し向上できるように、食事の時の姿勢や適切な食具の選択など、環境面への間接的な援助や指導助言を実施することである。

そのためには、専門職種だけでなく介護職員等の関係職種についても、以下のような摂食・嚥下機能の基本的な知識を学び、その知識を利用者や家族とも共有しながらプログラムを実施する。

- ・ 加齢にともない低下する摂食・嚥下機能のメカニズム
- ・ 摂食・嚥下機能の低下により生じやすいムセや誤嚥・窒息あるいは肺炎
- ・ 摂食・嚥下機能の低下と食事環境との関連とその改善策

3.3.3. 予防給付における口腔機能向上のサービス利用の流れ（図4）

1) 対象者の選定（要介護認定と介護予防ケアマネジメント）

要介護認定の結果、要支援1、要支援2と判定された者のうち、地域包括支援センターの介護予防ケアマネジメントにおいて、下記の通り口腔機能が低下していると、課題分析（アセスメント）され、当該プログラム参加に同意が得られた者を対象者とする。

- ①認定調査票における嚥下、食事摂取、口腔清潔の三項目のいずれかの項目において「1」以外に該当する者
- ②基本チェックリストの口腔機能に関連する（13）、（14）、（15）の三項目のうち、二項目以上が「1」に該当する者
- ③その他、口腔機能の低下している者又はそのおそれのある者
（③の具体的な例についてはp50 Q&AのQ3参照）

2) 介護予防ケアマネジメントと口腔機能向上サービス

(1) 地域包括支援センター

指定介護予防支援事業者としての地域包括支援センターは、介護予防ケアマネジメント事業として、介護予防サービスを必要とする要支援者の課題分析（一次アセスメント）を実施して、利用者本人の自己実現に向けた「介護予防ケアプラン」を作成し、本人・家族の意志に基づいてプログラム参加を支援し、その実施状況を評価するという一連のマネジメントを行う。

この課題分析で、地域包括支援センターは要支援者から口腔機能が低下している者を把握する。ここで潜在化しやすい口腔機能のニーズを幅広くかつ早期に発見するには、要介護認定調査票の特記事項や主治医意見書の摂食・嚥下機能に関する記載内容や特記すべき事項の記載内容などを参考にすると効果的である。また、すでに利用している介護予防サービスがある場合は、そのサービス提供事業者からの具体的な情報提供も参考にする。

課題分析で口腔機能のニーズを把握し、口腔機能向上プログラムが必要とされた場合は以下の手順でマネジメントを行う。

- ①利用者の課題分析から口腔機能の低下している者又はそのおそれのある者を把握する。

なお、主治の医師や歯科医師からの意見をふまえ、口腔機能向上サービスよりも優先すべき医療や歯科医療の必要な場合はこれを先に済ませる。

- ②利用者宅への訪問も含む課題分析の結果と本人や家族の意向などを踏まえて、具体的な達成目標とその実現のためのサービスメニューとして口腔機能向上サービスを含む介護予防ケアプラン原案を作成する。
- ③必要に応じてサービス担当者会議を開催して関係者の意見を聴取し、本人・家族にもプランを提示して、その必要性や意義、サービス内容等を説明し同意を得た上で、プランを確定する。
- ④確定した介護予防ケアプランを利用者及び担当する事業者等に交付し、プランに基づきサービスが適切に提供されるよう連絡調整等を行う。

3) 口腔機能向上サービス継続の対象者

概ね3ヶ月ごとの評価の結果、次の①又は②のいずれかに該当する者であって、継続的に言語聴覚士、歯科衛生士、看護職員等がサービス提供を行うことにより、口腔機能の向上の効果が期待できると認められるものについては、継続的に口腔機能向上サービスを提供する。

- ①口腔清潔・唾液分泌・咀嚼・嚥下・食事摂取等の口腔機能の低下が認められる状態の者
- ②当該サービスを継続しないことにより、口腔機能が著しく低下するおそれのある者

地域包括支援センターにおける口腔機能向上サービスの介護予防マネジメントの留意点

地域包括支援センターが潜在化しやすい口腔機能のニーズを発見して、口腔機能向上サービスの対象者の把握を確実にを行うには、基本チェックリスト（No13, 14, 15のうち2項目以上に該当）や要介護認定調査票（口腔機能関連項目の嚥下、食事摂取、口腔清潔が自立以外の者）を参考にすると効果的である。さらに口腔機能向上用の補助アセスメント票（図4「口腔機能チェックシート（例）」）なども用いるとより効果的である⁹⁾。また、すでに利用している介護予防サービスがある場合は、そのサービス提供事業者からの具体的な情報提供も参考になる。

一方、主治医意見書の内容（「今後予想される可能性の状態のチェック欄」の〈摂食・嚥下機能の低下〉と「サービス提供時の医学的観点からの留意事項」の〈嚥下〉の2項目に着目）や必要に応じて直接に主治の医師や歯科医師からの意見も得て、口腔機能向上プログラムが支障をきたす明らかな嚥下障害や口腔内疾患などが無いことを確認することも重要である。もし、明らかな嚥下障害や口腔内疾患などがあれば、医療機関の受診を優先して勧奨する。

次に、この課題分析の結果と本人や家族の意向などを踏まえて、具体的な達成目標とその実現のためのサービスメニューとして口腔機能向上サービスを利用者に提示する。この際、口腔機能向上プログラムについての説明や動議づけには、実際に行われている口腔機能向上サービスを事前に見学して具体的な改善事例などの実感を持つことや、分かりやすい図表やビデオ（DVD）、説明用チャート（図6-1～図6-8）などを用いると効果的である。

また、高齢者の口腔機能向上プログラムへの主体的な参加を得ていくためには、アセスメント段階から「××（病態）の危険がある」等の医学的ではあるがネガティブな響きをもつ表現よりも、「〇〇（生活目標）のため美味しく食事を」など利用者の自己効力感やそれぞれの自己実現に通じるポジティブな側面からモチベーションを高めておく方が、口腔機能向上プログラムへの参加の期待と意欲を高めることができる。

図4 口腔機能チェックシート(例)

◆ 口腔機能向上プログラムの目的とは？

「食べる」「話す」「笑う」「呼吸する」など、私たちが生きていく上で重要な役割を果たしているのが口腔機能です。食べ物をかむ機能や飲み込む機能は年を重ねるにつれて低下します。「固いものがかみにくい」「口がかわく」「むせることが多くなってきた」などを感じたとき、「とし」だからとあきらめてはいませんか？ その口腔機能低下に歯止めをかけることが、口腔機能向上プログラムの目的です。

以下に示すチェックシートを使って、ご自分の「口腔機能」をチェックしてみてください。また、ご自分では気がつかないことがあるので、ご家族や介護者の方、ケアプラン作成担当者の方も「注意する点」を確認してください。

ご本人様（ご家族様）へのお尋ね

①から⑪まであてはまる方に○をつけて下さい。

- | | | |
|----------------------------------|--------------|----------|
| ①固いものが食べにくいですか | 1. はい | 2. いいえ |
| ②お茶や汁物等でむせることがありますか | 1. はい | 2. いいえ |
| ③口がかわきやすいですか | 1. はい | 2. いいえ |
| ④薬が飲み込みにくくなりましたか | 1. はい | 2. いいえ |
| ⑤話すときに舌がひっかかりますか | 1. はい | 2. いいえ |
| ⑥口臭が気になりますか。 | 1. はい | 2. いいえ |
| ⑦食事にかかる時間は長くなりましたか | 1. はい | 2. いいえ |
| ⑧薄味がわかりにくくなりましたか | 1. はい | 2. いいえ |
| ⑨食べこぼしがありますか | 1. はい | 2. いいえ |
| ⑩食後に口の中に食べ物が残りやすいですか | 1. はい | 2. いいえ |
| ⑪自分の歯または入れ歯で左右の奥歯をしっかりと噛みしめられますか | | |
| 1 a. どちらもできない | 1 b. 片方だけできる | 2. 両方できる |

注意する点

- | | | |
|-------------------------------|--------|--------|
| A. 汚れ（歯、入れ歯、舌） | 1. あり | 2. なし |
| B. 口臭 | 1. あり | 2. なし |
| C. 口元の表情の豊かさ（笑顔） | 1. 乏しい | 2. 豊か |
| D. 会話の問題（発音がはっきりしない、しゃべりにくい等） | 1. あり | 2. なし |
| E. 飲み込んだ後の口の中に食べ物が残っている | 1. はい | 2. いいえ |

（1、1a、1b）のいずれかがある場合は口腔機能が低下している可能性が高く、口腔機能向上サービスの利用について検討する必要があります。